

CS こひつじ科礼拝式次第

2020年12月6日 午前9時30分

2020年度年間テーマ：「神は今も語っておられる。御言葉の恵みに生きよう。」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「いまだかつて、神を見たものはいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」
ヨハネによる福音書1章18節

13、おほしがひかる（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ペトロの手紙Ⅰ 2章24節

「そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。」

おはなし 「大祭司イエス」

佐藤紀子先生

急に寒くなってきましたが、皆さん風邪などひいていませんか。コロナの勢いはまだ強いですが、手洗いやマスクをしっかりと、コロナに負けずに励みましょう。

いよいよイエス様のお誕生をお祝いするクリスマスを迎える12月になりましたね。

先週は、2000年前イエス様が私たちに救われるために「預言者・祭司・王」の三つの働きを与えられたことを聞きました。そしてその中の「預言者」のお働きについてのお話でした。今日は「祭司」についてのお働きについてのお話です。

祭司は父なる神様と私たちの中に立ってとりなしてくださるお仕事をします。とりなすというのは父なる神様と私たちをいい関係にしてくださることです。

私たちは最初の人間アダムによって罪に汚れてしまいました。だから神様は私たちが許して下さらないのです。旧約聖書の時代は祭司が動物のいけにえによって神様の許しをお願いし続けてきました。でもイエス様は動物ではなくご自分の身体を捧げてくださいました。十字架という苦しい思いをして、ご自分を私たちのために捧げてくださいました。

神の御子であるイエス様が、私たちと同じ人間になってくださったのです。本当は私たちが神様の前に受けるべき十字架刑を、私たちの代わりに苦しみながら、なしとげてくださったのです。悪も汚れも何もない状態でなしとげてくださったのです。

なんとすばらしいことでしょう。なんとうれしいことでしょう。神の御子であるイエス様が、十字架にかかってご自分の血を流され、苦しみ、死んでくださったことによって、父なる神様は、私たちを許して下さり真っ白にしてくださったのです。

でも私たちは、日々悪いことや悪い思いをもってしまいます。だから復活され、天に昇られたイエス様は、今も私たちのために、父なる神様のとなりでとりなして下さり、私たちを父なる神様のもとに近づけてくださいます。

イエス様を救い主と信じていれば、イエス様のとりなしを受けることができるので、安心していることができるのです。

クリスマスは、十字架の救いをなしとげてくださったイエス様が、かちく小屋の飼葉おけに生まれてくださったことを喜び、感謝するときです。

※ 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂 2 階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

朝礼拝においでの際におささげください。

(12 月 13 日、20 日の献金はクリスマス献金としてささげられます。)

14、うまやのイエスは (こどもさんびかをお用ください)